



海老原誠治 (えびはら せいじ)

いただきます.info事務局、三信化工株式会社、資源と環境と教育を考える会『エコが見える学校』、女子栄養大学短期大学部非常勤講師、元関東学院大学非常勤講師。和食器を用いた出前授業や、テレビ局の撮影クルーの経験を生かして動画作成の研修会の講師も務める。

フィールドワーク/ 世界と日本の給食

▶ 現場でしか見れないこと

「いただきます」のルーツの1つには、山の神・海の神などへの感謝も含まれるでしょう。宮崎県日南市にある潮嶽神社では海幸・山幸の神が祀られ、特に毎年2月11日には、作況を占う「福種下ろし神事」やさまざまな神樂の奉納などが執り行われます（下記QRコード参照）。今回もスマホを活用した撮影方法についてご紹介します。

潮嶽神社では、獵師による猪の頭の奉納も有名です。今回は11匹分。ちなみに参拝客には、数日前より仕込んだ猪汁が振る舞われます。撮影の目的は、この奉納された



▲潮嶽神社の神事。



猪だったのですが、お社が高い造りで、撮影に工夫が必要です。このようなときには、自撮り棒が便利です。

最近はあまり見ませんが、従来より安定し、使い易くしっかりととした製品が多いと感じます。縮めたときに約20cm、伸ばすと1.5mほどのものだと、いつでも簡単に持ち運べ、俯瞰（上から見下ろすような視点）から撮影する際にも重宝します。

現場にゆくと、実物の大きさが実感でき、さまざまな角度から観察できて、臨場感など多くのメリットがあります。理想は、リアルさができるだけ伝わる記録です。ですから初歩的ですが、被写体と一緒に自分自身を写すのは重要です。メジャーの使用も資料価値だけでなく教育的にも大切です。



◀ 左からミニ三脚、伸縮式の自撮り棒（約20cm→1.5m）、スマホホルダー、スマートフォン。

▲泰納された猪の頭。左画像は1.5mほどの中撮り棒で撮影。右画像は手を伸ばして撮影。共にスマホを使用。



▲参拝客への猪汁の振る舞い。



▲左画像は、身長と比較した猪の供養塔（1663年建立、長崎県諫早市）。右画像は、メジャーで計測した鯨魂碑、鯨の胎児と母鯨の瞳が葬られている（江戸時代建立、宮崎県日南市油津）。



▲►15mの自撮り棒で撮影したVR動画事例。

<https://youtu.be/v50WvTNJ-kg?si=0qsh5xZUg-C4s6mZ&t=19>



最近の学校は、タブレットでの記録が当たり前です。必要に応じ、定規や比較となる物と一緒に撮影できると資料的価値が上がります。子どもに対して記録の取り方の見本となる撮影方法も大切です。またセルフタイマーを使用することを考えると、三脚もあると便利です。この時、手のひらサイズのミニ三脚を自撮り棒と一緒に準備しておくと応用の範囲が広がります。

最近のスマホは大画面で、以前よりも重い機種が増え、値段も決して安くありません。ですからスマホを留めるためのホルダーは、バネが固く、しっかりしたもののが良いです。ロック機能もあったらベターです。

自撮り棒もさまざままで、表現の幅を広げるなら、3mほど伸びる釣りざおのような製品もお勧めできます。撮影する目線が変わると見えるものも大きく変化します。最大で15mの自撮り棒が存在します。重く扱いは難しいのですが、騒音が出るドローンと違い、まるで鳥のような目線です。

学校給食国際調査

本誌2月号にさかのぼると、昨年12月に大阪で開催された「世界こども栄養フォーラム」を紹介しました。今年2月には、2024年の「学校給食プログラム国際調査」が公開され、日本語の要約もあるので、筆者が特に気になった点を紹介します。

まず給食という調達規模の大きさを、戦略的に政策へ活かし、食料調達に環境基準を設けて、持続可能性を推進する提案が示されています。政策のために特定の食料を全面的に推進することは、近年の日本ではまずありません。

また所得レベルの差による献立の差が分析され、「経済格差による栄養の差をどのように抑えるか」の問題意識の高さを感じました。ウクライナ問題などを原因とする食料等の高騰では、28%で一部中断があったようですが、それでもさまざまな取組が伺えます。これはセーフティーネットとしての給食の意識の高さでしょう。

細かいところでは、流通と梱包は世界的な課題ですが、世界で最も行われている対策が「袋や容器の再利用」です。梱包32%が「堆肥化可能な材料の使用」で、世界の発想力に驚きです。世界の先端をゆく日本の学校給食ですが、決して最先端だけではない部分が見えてきます。



【学校給食プログラム国際調査】

◀ハイライト日本語版

<https://gcnf.org/wp-content/uploads/2025/01/GCNF-Surevey-Highlights-Japenese-latest.pdf>



ハイライト英語版▶

<https://gcnf.org/wp-content/uploads/2025/02/GCNF-Survey-Highlights-English-31-Jan.pdf>



◀原文

<https://gcnf.org/wp-content/uploads/2025/02/GCNF-Global-Survey-Report-2024-V1.8.pdf>